学校努力点

（１） 主題

自他のよさを認めることができる生徒の育成

～ゆるやかな協働性の中での学習活動を通して～

（２） 主題について

本校生徒は、大きな生活の乱れや問題行動もなく、落ち着いた学校生活を送ることができている。一方、学校評価アンケートやＷＥＢＱＵの結果からは、自分の言動に自信をもつことができない自己肯定感の低い生徒や、自分の役割に価値観を見いだせない自己有用感の低い生徒、多様な価値観の中で人間関係の形成に苦慮する生徒がいることなどが分かった。そこで令和４年度より、自己肯定感及び自己有用感を高めることや、多様な価値観を認め合うことができる生徒の育成を目指していくこととし、主題を「自他のよさを見つけることができる生徒の育成」と設定した。

令和４・５年度は、「キャリア教育」を総合的な学習の時間をはじめとして道徳や各教科の授業など学校の教育活動全体の中に取り入れることで、キャリア教育で育む基礎的・汎用的能力の中から「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」の育成を目指した。学年の行事や発達段階に応じた活動を行い、活動後にキャリアパスポートや振り返りシートなどを用いて活動を振り返らせたことで、生徒が自分の成長を客観的に感じ取っている様子が、生徒の言動や記述に表れていた。

また令和５年度には、生徒がより「自分らしさ・自分のよさ」に迫る活動として、生徒が主体となって課題について調べ、まとめ、発表するといった探究活動を取り入れることとし実践に取り組んだ。各学級内での発表活動だけでなく、代表者による全校発表会も行い、学年の垣根を越え発表者を賞賛する様子も見られた。この成果を受け、年度末の学校評価では、行事のまとめに限らず日頃の学習活動の中でも自他のよさを認め合うことができる場面や活動に期待する声が聞かれた。

そこで令和６年度からは、主題を「自他のよさを認めることができる生徒の育成～ゆるやかな協働性の中での学習活動を通して～」とし実践に取り組むこととした。自他のよさを「見つける」から「認める」に変更し、各々がもつ得手不得手をお互いにフォローし合ったり、お互いの考えを尊重し合ったりする姿を目指す。そのための手立てとして、これまでに引き続き各学年の総合的な学習の時間や学級活動、道徳に加え、各教科の学習活動の中で、協働的な活動をする場面を設ける。

（３） 手立て

- 総合的な学習の時間を中心としたキャリア教育の実施
- キャリアパスポートを用いた成果の蓄積と振り返り活動
- 探究活動（調べる・まとめる・発表する）の実施

例：１年生：校外学習、福祉体験
２年生：職業体験
３年生：修学旅行

・各教科における協働的な学びの場面　←Ｒ６の重点内容

（４） 推進計画

４月　２日（火）　教科部会・学年会
４月　５日（金）　学年会　「総合的な学習の時間」実施計画等の検討
４月１１日（木）　教科部会　各教科における「協働的な学びの場面」検討
実践①（各教科）

⇩

９月　上旬　　教科部会（実践報告内容検討）
１０月　３日（木）　努力点中間報告（手立ての検証と修正）
実践②（学年・学級）

⇩

２月２０日（木）　努力点まとめ（年度末反省全体会）
３月中旬　　次年度の学校努力点の検討